

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和2年度第1回会議
日 時	令和2年11月19日(月) 午前10時00分～11時40分
場 所	第一コミュニティセンター 2階ホール
出 席 者	<p>【委員：11名】 江口委員、大森委員、北村委員、楯委員、中島委員、橋本委員、平田委員、前田委員、松井委員、矢嶋委員、矢端委員 ※板垣委員は都合により欠席</p> <p>【前橋市】 山本市長、戸塚副市長、中島副市長、吉川教育長、稲垣公営企業管理者、中畝政策部長、草野政策推進課長、木村産業政策課長、田部井農政課長、飯塚市街地整備課長、片貝教育委員会事務局総務課長、ほか関係職員</p>
発 言 内 容 中畝政策部長	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議令和2年度第1回目の会議を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、前橋市政策部長の中畝と申します。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>はじめに、本会議は公開となっております。傍聴及び撮影につきまして、許可することとしてよろしいでしょうか。</p> <p>【異議なし】</p> <p>ありがとうございます。それでは、傍聴及び撮影につきましては許可することといたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>今年度より、様々な分野で活躍される12名の方に新たに委員をお願いすることといたしました。</p> <p>委嘱の期間は、令和4年3月31日までとなります。</p> <p>委嘱状につきましては、お手元に置かせていただきましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部本部長であります山本市長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願ひします。</p>
山本市長	<p>はい、ありがとうございます。各委員の皆様おはようございます。</p> <p>また、お忙しい中、本市の有識者会議のためにお時間をお作りいただいたことに、お礼を申し上げたいと思います。</p> <p>私からは、私自身が様々な事業についての思いを語るべきではないと考えております。私が予見を与えることなく、各委員がそれぞれのお立ちになっているフィールドから見えた景色、そしてお考えを述べていただくことが本市にと</p>

って最も必要なことだと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

自由にそして皆様の実感をお伝えいただき、これがなによりも本市を正しい方向に導くものだと考えております。したがって以上でご挨拶は閉じるべきだろうと思います。

ただ、共有の課題として、今まで成してきたことだけはお話ししたいと思います。私たちは新しい価値の創造を作っていこう。そのために全てのいろいろな見直しをしていこう。そして新しいものに適正化して行こう。それが私たちの申し上げる新しい価値でございます。そういう観点で本市は今まで取り組んできました。どうぞそれらを踏まえて、新しい価値とは何ぞやというその根底から、各委員の見識、そしてご経験の中からのご発言をいただければと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。

中畝政策部長

ありがとうございました。

次に、有識者委員の皆様をお一人ずつご紹介させていただきます。

お名前を呼ばれた委員さんにつきましては、恐れ入りますがその場で順番にご起立をいただければと思います。

それでは、お配りしました名簿に基づき、順次、ご紹介をいたします。

**【以下、出席者11名の紹介】**

前橋市国際交流協会 在住外国人支援部会委員の江口安美委員さん。

学校法人共愛学園共愛学園前橋国際大学 学長の大森昭生委員さん。

国立大学法人群馬大学社会情報学部 准教授の北村純委員さん。

前橋市私立保育園長連絡協議会 会長の楯保幸委員さん。

前橋商工会議所 専務理事の中島克人委員さん。

一般社団法人前橋まちなかエージェンシー 代表理事の橋本薫委員さん。

日本政策金融公庫前橋支店 支店長の平田浩幸委員さん。

前橋市男女共同参画審議会 会長の前田由美子委員さん。

前橋市都市計画審議会 会長の松井淳委員さん。

公益社団法人群馬県看護協会 専務理事の矢嶋美恵子委員さん。

農業生産法人有限会社ヤバタファーム 取締役の矢端晴美委員さん。

なお、前橋の地域若者会議 委員長の板垣さんは本日欠席となっております。

皆様、よろしくお願ひいたします。

以上11名の委員の皆様により、会議を進行させていただきます。

続きまして、事務局の出席者を紹介させていただきます。

事務局の出席者は、その場でご起立をお願いします。

**【以下、事務局の紹介】**

戸塚副市長。

中島副市長。

吉川教育長。  
稲垣公営企業管理者。  
草野政策推進課長。  
木村産業政策課長。  
飯塚市街地整備課長。  
片貝教育委員会事務局総務課長  
田部井農政課長。

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、市長は次の公務がございますので、申し訳ございませんが、ここで退席をさせていただきます。

それでは、議事に入る前に配付資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は11種類となっております。

- 1 次第
  - 2 有識者会議委員名簿
  - 3 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱
  - 4 資料1 第七次前橋市総合計画 令和2年度行政評価について
  - 5 資料2 令和2年度行政評価シート（全53事業）
  - 6 資料3 行政評価に対する意見等
  - 7 （参考資料1）日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC）事業について
  - 8 （参考資料2）「働く女性を輝かせる12名のロールモデル」（冊子）
  - 9 資料4 地方創生推進交付金活用実績一覧
  - 10 資料5 第七次前橋市総合計画見直しの概要
  - 11 （参考資料3）令和2年度新型コロナウイルス感染症の対応状況
- 以上となりますが、皆様、よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、「3議事」に移ります。

はじめに、座長の選出についてでございますが、お配りいたしました設置要綱をご覧いただきたいと思ひます。

こちらの、第5条第1項におきまして、「座長は市長が指名する」と定められております。

このため、共愛学園前橋国際大学の大森委員さんに座長をお願いしたいと思ひますが、大森委員さんよろしいでしょうか。

大森委員

はい。

中畝政策部長

どうぞよろしくお願ひいたします。お引き受けくださいますとありがとうございます。

それでは申し訳ございませんが、座長席に、ご移動をお願いいたします。

【大森委員、座長席に移動】

中畝政策部長	<p>ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>ここからの進行は設置要綱第5条第2項により、大森委員さんをお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、大森座長さん、恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
大森座長	<p>改めまして皆様おはようございます。ご指名をいただきましたので、力不足ですけれども、座長を務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>お忙しい中、1回目の有識者会議にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。この会議は市の最上位計画であります第七次前橋総合計画の進捗管理をしていくための会議ということで、この総合計画をチェックするのがこの会議の役目なのだということです。</p> <p>前橋市の政策、行政、その方向性について皆様の意見をいただいて、よい政策の推進をしていけたらと思っております。たくさんご意見をいただいて、今日すべてが解決するものではないとは思いますが、次の施策に反映させるため、一人1度はご発言をいただきたいと思いますので、ご遠慮なくご発言をいただければと思います。</p> <p>コロナの問題、あるいは人口減少など様々な社会的課題が、これは全国的にもそうですけれども、この地方都市前橋においても、これから大きな課題になっていくだろうと思います。まさにコロナの時代の中で市がどうあるべきか、ぜひ皆様ご意見を市政に反映させていただければと思います。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきたいと思います。今日の議事は3つ用意されておりまして、冒頭申し上げました第七次前橋市総合計画の進行管理について、それから、地方創生推進交付金事業について、さらには、第七次前橋市総合計画の見直しについて、ということであります。</p> <p>まず、議事の1番から進めてまいりたいと思います。</p> <p>資料1 第七次前橋市総合計画の進行管理について、はじめに、事務局から簡単にご説明をいただいて、それから皆様から逐次ご意見をたまわっていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いいたします。</p>
政策推進係員	<p><b>【資料1、2、3、参考資料1、2に基づき説明】</b></p>
大森座長	<p>ありがとうございました。この評価の方法、それから資料の見方、そしていくつかピックアップをいただいて、いくつかの事業の内容の説明をいただいたところです。ここから、委員の皆様からご質問やご意見を頂戴していきたいと思っております。</p> <p>事前にご意見をたくさん出していただいて、表にまとめられています。事前に出したから同じことを言うてはいけないということはありません。あるいは、事前に出した意見に対する事務局の考え方、それに対してまた重ねてご意見が</p>

大森座長	<p>あるという方もいるかと思えます。何なりとご意見をいただければと思えます。</p> <p>冒頭、私から確認をさせていただきたいのですが、資料1の2の行政評価の実施概要のところABCの段階があって、どうしてもCの評価のところは気になるわけですが、Dがないのは素晴らしいと思えます。CのところはBやAになっていけば良いなということですが、今年Cが9事業、昨年度も9事業ということで、事業の項目は同じ9事業なのか、入れ替わっているのか、そのあたりはお分かりになりますか。</p>
草野政策推進課長	<p>政策推進課長の草野と申します。</p> <p>昨年度と継続的にC事業というものがほとんどでございます。と言いますのは、例えば政策推進課で取り組んでいる結婚支援の事業とか、今回もいろいろご意見をいただきましたけれど、なかなか行政の力だけでは前に進めない事業でございます。あるいは雇用関係の事業等は、経済情勢、市の施策だけでなく、県や国全体の動きで流れるものは、なかなか評価的には効果が短期間に出ない事業もありますので、CはCとして受け止めつつ、前向きに改善を図れたらと考えております。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。もし、できれば次に評価するとき53事業あるので大変なのですが、53事業があって、その事業がBからAになったとか、CからCのままだとかがわかると、この事業なら頑張っているけど、仕方がないとか、もうちょっと頑張れるのではないかと、そういったことが分かりやすい。ほかの審議会などでは矢印の上下の表示などにより、昨年と比べて評価が上がったのか下がったのかわかるようなものがあつたりします。</p>
草野政策推進課長	<p>そういった整理もしてありますので、後ほど委員さんにご提供したいと思っております。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは皆様からご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですが、挙手いただけますでしょうか。</p>
江口委員	<p>たくさんの事業、計画が進んでいるかと思えますが、今は4月から新しい生活、8月から新しい生活、特にいろいろな事業について、ウィズコロナ、今まで集まっていたものが集まれないような、いろいろなやり方を目指さないと生き残れない、あるいは事業が成り立たないと思うのですけれども、そういうやり方について、今後、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>コロナ対応でございます。資料2でお示しいたしました行政評価シートは、昨年度の行政評価でございます。ということで、2月の後半から3月で、既に一部影響が出ているものがございます。そんな中で、例えば公民館の講座等は、昨年度から準備をして、早々にリモート講座を始めたり、そういった取り組みがすでに始まっているものもございます。一方で、本日、議題の3で報告させ</p>

<p>江口委員</p>	<p>ていただきますが、総合計画が10年の計画なのですが、3年、4年、3年というサイクルで短期間に事業の組み換えを検討しています。その際にウィズコロナ、あるいはアフターコロナの対応を念頭に置きながら事業の組み立てを見直したいと思います。説明は以上です。</p> <p>もう一点ですが、先ほど人材の育成のところ、外国人のことも出ていたのですが、昨日はワンストップセンターで勤続相談、それから前の日はGメッセで外国人の就職相談の手続き、また今月26日は高崎入管で私たち行政書士会が無料相談で外国人のいろいろな対応をしますが、就職についての対応が全くできていない。例えば、就職説明会等で、就職を希望する外国人や募集する企業を集めても、外国人がどこに行ったらいいのかわからないといった状態であり、それに対する細かい対応というのが全くできていない。そういう細かい対応をもう少しできたらもっと定着する。みんな群馬に来たい、群馬で就職したい、県内・市内の学校を卒業した方は本当に群馬が好きだ、前橋が好きだと言ってくれる外国人が多いのですが、なかなか外国人の就職に関する情報発信もないし、どうやって仕事を探したらよいかかわからない。非常に難しいところだと思いますが、そういう細かいところをもう少し対応する必要があります。県でもなかなか工夫がされていないのですが、もっと前橋市も対応すべきです。例えばWi-Fiについて、元気21には設置されましたが、市役所に行ってもWi-Fiがありません。このような細かい対応を総合計画の事業に具体的内容を組み込み、対応をして欲しいと思います。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>外国人の増加への対応ですが、特に前橋の場合は留学生が多いというところがございます。現在、関係課と集まり、各所属がどういう情報を持っているのか、実際にそういった情報共有から進めているところでございます。</p> <p>例えば、留学生を受け入れている学校とは、定期的に意見交換をする場を設けているのですが、そういった会議ではホームページが分かりづらいとか、いろいろご意見をもらっていますので、そういったところをひとつひとつクリアしていきたいと思います。</p> <p>あとは、県も特別な組織を立ち上げていますので、県にもこちらの方にレクチャーしていただくような機会を提案して、連携して取り組みたいと思います。</p>
<p>大森座長</p>	<p>ありがとうございます。出していただいたご意見を記録していただいて、お話は制度的なことや仕組みもそうですけど、実際の現場での細やかな対応ということですので、現場にいる方にヒアリング等が必要になってくるのかもしれませんが、ぜひ、よろしく願いいたします。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>中島委員</p>	<p>そもそも論かもしれませんが、これまで東京へ様々な機能を集積しまして、経済の効率化が図られてきましたが、今回のコロナ禍で判明したことは、東京への一極集中はリスクが高いということでした。少子高齢化問題のみならず、自然災害の発生等においても同様のことがいえるということで、東京で生活する住民にとっては、大きなコストが掛かる話になってしまった。</p>

	<p>9月にパソナグループが本社機能の一部を段階的に淡路島に移すということがマスコミ報道されました。まさにこういった動きが上場企業等が出てくる。これを地方の都市においてはビジネスチャンスにすることが大事だと思っているので、今まで以上に地方創生そのものが進むと思っています。コロナが回復しないというのも大きな問題なのですが、そんなことを思っています。</p> <p>資料3で今回の行政評価に対する意見は、前橋商工会議所は14項目ほど出させていただきました。事務局の考え方をご回答いただきまして、大変ありがとうございます。感謝を申し上げますとともに、先ほど事務局の説明にありましたように、資料2の15ページ、16ページの重点事業No.8の「文化財の活用促進」を見ますと、成果指標の目標値の設定が正しかったのかと感じています。2018年度から目標値が36,600人に対して実績値が83,022人ということで、実績数字が上がることは決して悪い話ではないのですが、この目標値を設定したときの担当課の考え方と、政策部の考え方の、どういう議論があって、こういった格差が出てしまうのか。この事業だけでなく、そういうケースがあるのだと思うのですが、その辺のプロセスを教えていただけたらと思います。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>成果指標の定め方でございます。これは文化財の例も、他の例も同じですが、総合計画を策定していた当時の実績値、基準年度でいくと、2012年度の実績値を参考に、多少上向きにする場合と、子どもが減少しているという事業の場合は、横ばい、あるいは減少幅を下げましょうという議論をしながら、目標値を立てています。</p> <p>ご質問いただきました文化財の例でいきますと、2012年度の入館者全体が40,036人でした。その後、臨江閣の工事の影響もあったのですが、2016年度は24,046人というような実績でした。そういうことを加味して、目標値を36,600人、42,900人としたわけでございますが、その間に、実は臨江閣は文化財ではあるのですが、利用を促進する条例を議会でもご議論いただいて設置しました。文化財ですから基本は保存でございますが、利用も目指していきましょうという姿勢をお示ししたことにより、少し設定した目標より伸びがあったのかなという感想を持っています。</p>
<p>中島委員</p>	<p>ありがとうございました。歴史まちづくり法もできましたし、実績値が増えるということは大変喜ばしいこととっております。そういう意味でいくと、2020年度はどんなことが想定されるということになると、柔軟に目標値を変えていくような仕組みに変えていくことはできないのでしょうか。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>今年度の取組の評価は、イベント系は必ず目標に対してマイナスになってくると思います。そこは、淡々と受け止めて、一次評価で機械的にDとかCになったものでも、ある程度ウィズコロナの対応を含めた評価を二次評価で補正したいと思っています。</p>
<p>大森座長</p>	<p>ありがとうございます。今後まだまだ続いていく計画なので、目標値を大幅に越えたような素晴らしいものになったときに、目標値を更に上に設定し直す。そうしたことを見直し年度でなくてもできるような柔軟性があっても良いので</p>

<p>矢端委員</p>	<p>はないかというご意見だと思いますので、ご検討お願いできればと思います。他にはいかがでしょうか。</p> <p>農業をやっています矢端と申します。今回初めて参加させていただくのですが、最初に、行政評価シートを事前に拝見したところ、農業に関する重点事業はNo.29～31ということで、全53事業のうち、たった3事業でした。本日配付された資料3を見ますと、有識者意見の31番から42番までの意見が農業に関するものでした。たった3事業しかないの、農業に関心を持っているのは私くらいかと思っていたところ、高い関心を持っていただいているということが分かったので、とても励みになったのですが、そもそも市全体における農業予算はどのくらいなのでしょう。</p>
<p>田部井農政課長</p>	<p>令和2年度の一般会計予算が1443億2309万円で、農林水産業費が25億8438万円で全体の1.8%となっております。決算額ベースで見ましても、大体2%前後で推移しております。</p>
<p>矢端委員</p>	<p>ありがとうございます。農業予算は、たった2%なのですね。これは市民の関心の度合いや、コロナ禍で食と農に関する関心が非常に高まっている中でギャップがあるのではないかと思います。農政課の皆さんは、課長をはじめ真摯に取り組んでいただいている、すごくバックアップしてもらっています。そこでの不満は全くないのですけれども、市としては農業をどうしていきたいのか、どのくらい重点的に考えるかということ、本日は副市長がいらっしゃいますので、この場を借りてお聞きしたいと思います。</p>
<p>中島副市長</p>	<p>ただいまの質問ですけれども、全体予算に占める農業予算の割合が少ないということで、個別の事業については、必要性を見極めて予算を確保していると思っています。</p> <p>一方で、意見がありましたように、比率が低いという部分で考え方が乏しいのではないかと思います。数字的にはそういう傾向が出ていると思いますが、考え方とすると、食と農については、市としては重点施策の位置づけで捉えておりますので、そういうことはないと思っておりますけれども、こういった場でそれぞれの有識者の方にご意見を伺うことは、大変ありがたいことだと思いますので、そうした意見をこれからの農業振興、農業施策の中で課題として頭の中に入れていながら取り組んでいきたいと思っております。</p>
<p>大森座長</p>	<p>よろしいでしょうか。今回矢端委員さんに新たに入っていたということも、その意味があるのだろうなと思っております。他にいかがでしょうか。</p>
<p>橋本委員</p>	<p>橋本でございます。行政評価を事前に読ませていただいて、本当に前橋市役所の皆さんがこういった一つひとつの事業に対して、真摯に向き合っていて取り組んでいるなと感じました。その中で、53の事業があるわけですけれども、この総合計画に位置付けられた事業を通して、「新しい価値の創造都市・前橋」を目指しての総合計画だと思うのですが、これらの個別の事業の評価とは別に、全</p>

<p>草野政策推進課長</p>	<p>体の感触として前橋市としては、A B C Dでいう、どの段階にあるのかお聞きしたいと思います。</p> <p>全体的にみますと、今回、「新しい価値の創造都市・前橋」という第七次前橋市総合計画を策定したときに、新しく強調した視点は、やはり市民参加、あとは民間との連携で、行政だけが旗を振るのではないという姿勢を掲げました。評価項目も定性的な評価ですが、地域経営を必ず意識して事業を進めましょうということになっています。</p> <p>橋本委員さんにもお世話になっている街なかでも、民間の動きがどちらかというと行政を引っ張ってくれる側面が多々出てきていると思います。それは、農業、先ほどのご意見もそうですが、あるいは教育においても、民の動きが出てきているので、全体としてはそういうところを見るとB評価で、概ね順調に皆様のお力により進められていると考えております。</p>
<p>大森座長</p>	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
<p>前田委員</p>	<p>2点ほどお願いしたいのですが、まず1点目は、資料2の23、24ページで、重点事業No.12の「子育て世代への包括的な支援」についてです。先ほど目標値と実績値の話が出ていましたが、活動指標という欄で産後ヘルパーの派遣件数が載っています。産後ヘルパーの派遣件数が目標値より実績値が多いのです。先ほどの話でいうと、かなり前に目標値を設定していると思うのですが、実際に使われている数が2018年度から大きいわけですね。やはり実態としてニーズが高いということを考えて、もう少し幅を持たせて、予算が掛かるのかもしれませんが、充実させていく方向でお願いしたいと思います。3年目の目標値が440ですけども、1年目の実績値が既に559なので、この数値の開きが実態に合うようにしていただきたいと思います。</p> <p>もう一点、続けてよろしいでしょうか。</p>
<p>大森座長</p>	<p>はい。</p>
<p>前田委員</p>	<p>もう一点が資料2の53、54ページの重点事業No.27「女性が活躍しやすい環境づくり」というものなのですが、本日資料で配っていただいた参考資料2の「12名のRole model」という冊子です。これを今日拝見したかったのですが、非常によくできていますし、カラープリントで見やすくなっていて大変素晴らしいものだと思うのですが、これは実際のところどのような使い方をされているのかということをお聞きしたいと思います。ぜひ有効利用していただきたいと思います。</p> <p>それからこのページの話なのですが、女性の管理的な職に就いている方たちを、この冊子で取り上げて、モデルとして提示して、これを推進しようということだと思います。例えばですが、前橋市役所の庁舎内の女性管理職割合を高め、一つの事業所のモデルとして示していくことも必要だと思います。</p> <p>そういう意味では、庁舎内の女性管理職割合を高めるという、具体的な目標は行政評価にはないのですが、例えば、モデル事業集に記載があり、そういう</p>

	<p>指標を意識して取り組むようなことがあって欲しいと思います。</p> <p>この事業の担当課が産業政策課と生活課となっております。おそらく庁内の管理職の管理になると人事担当部署（職員課）になりますでしょうか。職員課が入っていないので、庁舎内の取組としては難しいと思うのですが、色々な行政機関では出てくる話だと思うので、社会全体は女性が活躍しやすい環境をつくろうと動いている中で、政策を引っ張っていく事業所としての役所の中はどうなっていくかということもやはり意識した方が良いと言われておりますので、その取組をぜひお願いしたいと思います。</p> <p>少し長くなりましたが、質問はモデル集がどのように使われているのかということですので。以上です。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただいておりますので、ご意見はしっかりと受け止めていただき、ご質問にお答えいただければと思います。</p>
木村産業政策課長	<p>産業政策課長、木村と申します。ご質問いただきました「12名のRole model」につきましては、昨年の12月に1,000部作りしました。どういう場面で活用しているかと申しますと、女性向けのセミナーですとか、管理職養成の講座なども実施していますので、そういう機会に配付をしております。また、随時、ロコミでこうした冊子があるということを問い合わせいただくので、随時配布しており、好評を得ております。</p>
草野政策推進課長	<p>後半の市役所内部の女性登用ですが、これは人事担当部署が目標を定めまして、積極的に市も取り組もうという姿勢でございます。</p> <p>また、こういった総合計画の中でも、市の取組を前に出して説明できるかというのは持ち帰って相談したいと思います。</p>
前田委員	<p>ありがとうございます。おそらくこの資料の中に正式に、例えば行政評価シートの中に入れるのは難しいことは分かっていますので、できましたら、次回からこういう場で、参考資料程度で、庁舎内の女性管理職の割合がどういう状況になっていて、どういう取組をされているかということを、私たちが確認できればありがたいので、そういう資料を添付していただくことを検討していただきたいと思います。</p>
草野政策推進課長	<p>後日整理して、会議の前に情報提供をしたいと思います。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。</p>
平田委員	<p>日本政策金融公庫の平田と申します。よろしくお願いたします。</p> <p>重点事業No.28、資料55ページの「包括的な起業支援」です。いくつか質問をさせていただいて、ご回答をいただいているところでございまして、直接記載のない事項なのですが、全国的に廃業の問題が非常に大きくなっていて、「創業」と「事業承継」をセットで対応していくという時代になっているので</p>

はないかと思えます。

私どもも、そのマッチングができないかということで試験的にやっていたりするのですが、前橋市として「創業」と「事業承継」をどうやって結び付けていくのかということをお考えになっていらっしゃるれば、そのことについてご説明をお聞きしたいと思います。

それからあと2つございまして、重点事業の29番、資料57ページについて、成果指標に新規就農者が掲載されており、目標23人に対して実績9人ということで、目標には達していないところであります。

私が調べたところによりますと、県内のシェアでいきますと、結構前橋市は頑張っているということが言えるのではないかと思います、そういった意味では、市の努力に敬意を表したいと思います。

一方で、私の前任地が長野市なのですけれども、長野県は親元就農での新規就農者が結構多いのです。私なりにうまく機能しているなど思ったのが、事前の質問にも書かせていただいた「里親制度」というものです。

これは、みっちり2年間ほどプロ農業者のもとで研修をしてから、市長の認定を受けて、はじめて就農をする。その時点で私共の支援を受けたりしています。

私共の全国のフォローの事例を見ますと、研修の期間の長さによって、その後の経営の良し悪しというものが傾向として出てきています。

2年以上研修を受けて自分の経営を始めた人と、そうでない人の売り上げですとか収支の推移を見ますと、平均してみると最初は赤字なのですが、その後、どれ位で黒字になるかというペースが、研修を受けている人の方が良いという統計もございます。なお、こちらについては、資料の中で回答をいただいているので、この場での回答は必要ありません。

次に、重点事業の30番「儲かる農業の実現」の成果指標「担い手農家への農地集積率」のところですが、事前の質問で「人・農地プランの実質化」の話がありまして、今年度中にプランの公表を行うとのことですが、成果指標の目標値2020年度40%というものは、アンケートの結果によっては、大幅に目標値を変更する必要も出てくるのではないかと思います。

そのような見直しを予定されているかどうかをお聞かせいただければと思います。

大森座長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

木村産業政策課長

はじめに、創業に対する取組についてですが、主に3つの柱に基づいて取り組んでおります。

1つ目は、資料にも記述がありますが、「創業センター」というものを本市は設けております。その中には、インキュベーションオフィスがあります。そこに入居していただくのと同時に、創業センターとして各種セミナーや講演会・講習会を開催しております。

2つ目の柱としますと、創業コンサルティング事業も本市が直接実施しております。中小企業診断士による相談に応じたり、金融面でのアドバイスをしたりですとか、そういった事業を展開しております。

	<p>3つ目としますと、日本政策金融公庫さんにもメンバーとして加入して頂いている「前橋創業支援ネットワーク」というものがあります。日本政策金融公庫のほか、中小企業診断士協会なども入っていただいております。ワンストップで相談に応じて、アドバイスができるように体制を整えております。</p> <p>このような3つの柱で取り組んでいるところです。</p> <p>もう一つご質問をいただきました事業承継についてです。</p> <p>これは中々行政の立場からすると、正直なところ情報を集めにくい分野です。事業をやめるとかというものはとてもデリケートなものなので、中々情報が入ってきません。</p> <p>そこで、県の支援団体とも協力し、ネットワークを作りまして、加入する団体同士で情報を共有して、それぞれができることをやろう、又はそれぞれの部署をつなげようという取り組みを進めているところです。</p>
<p>田部井農政課長</p>	<p>続きまして、農政課からお答えさせていただきます。</p> <p>農地の利活用に関するアンケートの公表に向けて、現在、努力をしているところでございます。</p> <p>まだアンケートの回収ができていないところもございますので、粘り強く回収できるように進めているところですが、ご質問いただきました状況につきまして、回収率は50%を超えていると考えていますが、ある程度の見込みがたった時点で、目標値の改善についても検討を図ってまいりたいと思います。</p>
<p>大森座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>事業承継については、やはり課題となっており、商工会議所と市と前橋6大学でつくったプラットフォームで今年度後半、また、次年度に向けて、事業承継を目途とした次世代経営人材育成、担い手育成、ビジネススクール構想を立ち上げて、現在取り組んでいるところです。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
<p>矢嶋委員</p>	<p>看護協会の矢嶋でございます。</p> <p>資料27ページの保育の関係について質問をさせていただきます。</p> <p>結婚、妊娠、出産、子育ては、全てつながっていると思うのですが、結婚もちろん、安心して出産し、安心して仕事ができることが大切な中で、「取組状況」のところで、病児・病後児保育の記載があります。</p> <p>やはり子どもが突発的に熱を出したりして、どうしても親が迎えに行かなくてはならないという状況がある中で、そういったことが続くと正規では無理ですよということを言われてしまうということもあると思います。</p> <p>昨年度は、病児・病後児保育施設整備1件を支援したとなっておりますが、1件というもので総合評価としてAとすることが果たしてどうなのだろうかと感じましたので、そのところを質問させていただければと思います。</p> <p>もう一点質問ですが、21番のメンタルヘルス事業ですが、看護協会もうつ・自殺予防に関する県の委託事業を受けておりまして、人材育成ですとか、普及活動などを行っております。</p> <p>ゲートキーパーという記載があるのですが、やはり10代の自殺率が増えて</p>

	<p>いく一方になってしまっているという中で、教育委員などと連携をした先生へのメンタルヘルス事業については、この中では分かりかねましたので、そのあたりについて質問をしたいと思います。</p> <p>それと、資料1を見ますと、今後の予定ということで11月にホームページに掲載ということが書いてあります。</p> <p>市民参加ということも説明の中でありました。成果指標の目標なども柔軟に見直した方がいいのではないかとといった意見も出ている中で、ホームページに掲載したあとの動きとしてどういったことを考えているのかを伺います。</p>
<p>草野政策推進課長</p>	<p>まずは、No.14「就学前の子どもの預け先の確保」についてでございます。病児・病後児保育の補助件数が1件だけであったという部分ですが、これは、国の補助制度の活用ですとか、民間保育所の整備の計画ともマッチングすれば、それに応じて今後も支援を行うことができるのではないかと考えています。</p> <p>あとは、病院と連携した病児・病後児保育を、例えば済生会病院などで実施していますので、そういった部分も順次拡張しており、積極的に進めていければと考えているところでございます。</p>
<p>教育委員会事務局総務課長</p>	<p>教育委員会事務局総務課長でございます。</p> <p>教職員のメンタルヘルス事業でございますけれども、ここの成果指標においては掲載していないのですが、学校保健係というものが総務課にございまして、そこで年間を通じまして、ストレスチェックを全教職員に実施しております。</p> <p>なおかつ、長時間にわたる勤務があった場合の職員についても、すべて把握しておりまして、そういった職員を対象とした相談機会を設けて対応しております。</p>
<p>矢嶋委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>実は先日、うつ・自殺に関する研修がありました。そこに学校の先生がお見えになりまして、研修を受けた後の講師への質問の中で、担任をしている子どもから「先生、僕自殺をしたいんだ。死にたいんだ。」という相談を受けたけれども、自分は研修をなにも受けていなかったのでドキッとしたけれども、とにかく言ってくれてありがとうという風に対応したという話がありました。</p> <p>先生方へのそういった研修を通じて、本当に子ども達の死を食い止めることにつながりますし、もちろん自分自身のメンタルヘルスケアも大事ですが、自信を持って日々の学校生活の中で子ども達と接することができるのだと思いますので、是非そういったところも推進をお願いいたします。</p>
<p>吉川教育長</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>先生方が一人で問題を抱え込まないようにスクールサポート事業ということで多くの専門家の方に学校現場又はご家庭内に向けてオープンサポートという形で訪問を通じまして子ども達をサポートしているところです。</p> <p>先生方が悩まずに先生自身も相談できる環境づくりを進めたいと考えております。ありがとうございました。</p>

大森座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>行政評価結果のホームページへの掲載についてはいかがでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>行政評価は、中々分かりづらいところもありますが、これは昨年度の取組の結果ですので、暫定版として決算議会の前に議会あてに情報提供しております。</p> <p>また、今後ホームページに出す際には、概要版も作りまして、市民の方からもご意見を引き出せればと考えております。</p>
大森座長	<p>それでは松井委員お願いします。</p>
松井委員	<p>ホームページに概要版を載せられるということなのですが、この行政評価シートについて、成果指標の評価について、なぜなのだろうというケースがいくつかあるというふうに感じました。</p> <p>本日の説明では2012年度の実績が基準になっているということでした。その更新を今年度は行い、それを基に評価をしていくことになるということですが、その旨をどこかに記す必要があるのではないかと思います。</p> <p>最初に設定された目標値がいくらだったのかという情報がないと、達成できていそうなのになんでD評価なのだろうというように感じてしまうものもあると思います。ご検討いただければと思います。</p> <p>総合計画は、次の10年に向かわなければならないと思いますが、コロナ禍の今、首都圏の人間が地方に移住するなり、それは企業として移る可能性や個人として移る可能性もある中で、スローシティの環境であるとか、移住の仕組みであるとかが整っていれば、手を挙げたい人も増えてくるのではないのでしょうか。</p> <p>それから、住むことに関して言えば、空き家の問題などもリンクすると思います。</p> <p>そういったことが全てリンクして、用途地域の話ですとかも関わってきますが、そのあたりを、今回ではなくて結構ですので、次の10年に向かって、複合した問題を解決するようなことを考えていただければということ意見をしてお伝えします。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>記載の仕方をはじめとした貴重な意見を今いただきましたので、事務局ではご検討をお願いしたいと思います。</p> <p>私も全体的に一つ一つの事業は良いのですが、複合領域というか、そういった部分を新しい価値の創造に向けて、縦から横にという関係でつなげていければいいのかなというふうに感じました。</p> <p>そろそろ時間も押しているところではありますが、まだお二方にご意見をいただけていないのですが、特別にご意見がなければ次に行かせていただこうと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
楯委員	<p>資料2の27ページ、28ページの「就学前の子どもの預け先の確保」、これについてはすべてA評価ということで、かなり評価が高いですが、園を経営して</p>

	<p>いる者としてみますと、保護者からの意見で、希望している所に入れないとか、年度途中で引っ越して来たら入れないといった声を聞いているにも関わらず、全てAという評価が、どうなのかという気がします。</p> <p>やはり、行政とすると前橋市は待機児童はいないといったところで評価できているのはあると思いますが、実際に利用している側の声としては、もう少し利用しやすいとかいつでも受け入れてもらえるような、また、近くの園など自分が希望するところに入れないとといった状況もありますので、そういったところを改善していくためには、この評価はどうかという気がします。</p>
大森座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>とりあえず数字としてはAなのだから、次は質を目指しての目標設定がでくるとよいですね。</p>
草野政策推進課長	<p>国の定義で言いますと待機児童はゼロですが、そういった課題は時々議会からも指摘いただきますので、質を向上させていきたいと思います。</p> <p>一方で、法律とバランスを取る必要があると思いますが、出来るだけ希望するところに入れるような対応を担当課と検討していきたいと思います。</p>
大森座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この議事の1ではたくさんのご意見をいただきました。総合計画の進行管理についての議題はここまでとさせていただきます。</p> <p>続きまして、議事の(2)地方創生推進交付金事業について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
政策推進課係員	<p><b>【資料4に基づき説明】</b></p>
大森座長	<p>ありがとうございました。これは交付金でこうした事業をやっていますという報告でしたが、何かご質問等はございますか。</p> <p>こちらは、交付金事業なので動かしづらいですが、赤城山のツーリズムなどは、先ほど松井委員さんがおっしゃっていましたが、今後はワーケーションとか移住とかそういったところとうまく関連してくる話かと思っています。</p>
橋本委員	<p>こちらの一覧にでている事業の中で、行政評価ではC評価に位置付けられた事業もいくつかあるようですが、C評価になっているところのテコ入れをしていくというイメージでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>この交付金は、性質上、新しい取組などが対象となっています。国の方も新しい課題で新しい挑戦に対して後押ししてくれるという側面がありますので、委員さんがおっしゃるとおり、C評価の事業に交付金が当たるパターンが多くなっているというのが現状です。</p>
橋本委員	<p>ぜひ交付金を有効に活用していただいて、C評価を上にあげるように計画が</p>

	<p>進んでいくことを望みます。</p>
大森座長	<p>これは、実績値が目標値に届いていなくても、内閣府は交付金を出し続けてくれるのでしょうか。評価により交付金が下げられるということはあるのでしょうか。</p>
草野政策推進課長	<p>市の施策だけで数値が上がっていかないものがあります。そういったものであっても、事業を着実に取り組めば、計画期間中は支援をしていただける内容となっております。</p>
大森委座長	<p>ありがとうございます。 では、次に進みます。議事の（３）第七次前橋市総合計画の見直しについて、事務局から説明をお願いします。</p>
政策推進課係員	<p><b>【資料５、参考資料３に基づき説明】</b></p>
大森学長	<p>ありがとうございました。コロナだからというわけではなく、当初から計画の見直しの時期だったというところで、タイミングとしては当然、コロナなどを考えながら見直さなければならぬ。ただ、コロナ対策そのものを計画に入れ込むというよりは、その影響やその後のことを広い視野に入れて見直しを行っていくということです。 今の説明に対して、質問やご意見がありましたらお願いいたします。</p>
江口委員	<p>すぐには無理とは思いますが、本気でデジタル化を推進するおつもりでしたら、資料等をタブレットに配信していただきたい。私たちの業界の会議では、会議資料はすべて貸出用のタブレットに配信されています。そこで事前に見て、会議当日もタブレットを用いて進行するなど、紙もなるべくなくそうという方向に向かっています。 ぜひ、市の方でも、タブレットを貸し出していただくなど、印刷をしなくてもよい方法の検討をお願いします。</p>
大森学長	<p>私もぜひそうして欲しいと思います。</p>
北村委員	<p>例えば、目的に対して制御できる要因とできない要因、たとえば婚活の事などがあると思うのですが、それとの目標達成との関係が、あまり現実的に考えられていないような気がします。ただ、これだけ表になってきますと、議論の大きな土台になるので、それはそれで意義があるのかなと感じております。</p>
大森学長	<p>ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。 それでは、第七次前橋市総合計画の見直しについては、またみなさんにご審議をいただかなければならない時が２月にありますので、また、たくさんのご意見を出していただければと思います。</p>

	<p>予定していた議題はここまでとなります。それでは事務局に進行をお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
中畝政策部長	<p>大森座長さん、ありがとうございます。そして、各委員のみなさま、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。</p> <p>それでは、事務局から事務連絡等がありましたらお願いします。</p>
政策推進係長	<p>事務局より2点、ご連絡させていただきます。</p> <p>1点目は、次回の有識者会議の開催についてでございます。先ほど説明させていただきましたとおり、第2期推進計画案がまとまりましたら、第2回目の有識者会議を来年の2月下旬頃に開催する予定となっております。このため、詳細な日程等が決まりましたら、改めて通知させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>2点目ですが、本日の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆様方に送付させていただき、内容の確認後、ホームページで公表となりますので、あらかじめご承知おきくださいますようお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p>
中畝政策部長	<p>ただいまの事務局からの説明に対しまして、ご質問等がありましたらお願いいたします。</p>
北村委員	<p>議事録は、議事の概要ですか。それとも詳細の議事録になるのでしょうか。</p>
政策推進係長	<p>皆様の発言をそのまま掲載させていただきたいと考えております。</p>
中畝政策部長	<p>それでは、閉会にあたりまして、県都まえばし創生本部副本部長の戸塚副市長よりごあいさつを申し上げます。</p>
戸塚副市長	<p>戸塚でございます。本日は、長時間に渡りご審議をいただきまして大変ありがとうございます。また、座長を務められました、大森先生には円滑な審議、大変ありがとうございます。皆様からそれぞれ色々なご意見をいただきました。</p> <p>次の政策に繋がるよう努めたいと思っております。そして、暮らしやすいまちづくり、住みやすいまちづくり、元気なまちづくりといったことを基本に考えておりますので、引き続きご支援をお願いいたします。</p>
中畝政策部長	<p>以上を持ちまして、県都まえばし創生本部有識者会議令和2年度第1回会議を終了いたします。</p> <p>長時間に渡りご協議いただきまして、誠にありがとうございました。</p>
	<p>以上</p>